

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870501289		
法人名	有限会社 ミキハウス		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	新居浜市阿島1-7-27	(電話) 0897-46-4050	
管理者	加藤 博		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 12 月 10 日	評価確定日	平成 21 年 2 月 13 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 11 月 17 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 9.8 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 17 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	名	要介護 2	6 名
要介護 3	7 名	要介護 4	4 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 85.9 歳	最低 79 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、昔、塩田として栄えた地区を埋め立てた場所の一角にあり、工業団地に隣接しているが、明るく静かな環境が守られ、落ち着いた時間が流れている。職員は、利用者一人ひとりを尊重し、生ある限りいきいきと心豊かに過ごすことができるようなケアに努めており、利用者は穏やかな表情で安心して生活している。利用者を人生の先輩として学ぶことは多く、職員は感謝の言葉かけをしている。職員の連携が十分で、相談や助け合いがスムーズに行えている。職員のレベルアップによるサービスの質の向上を目標に、施設長は職員の育成や資格取得に対して深い理解と情熱を持って取り組んでいる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

地域密着を含めた理念の再検討、介護計画の作成、苦情申し立て連絡先の明示などについて、改善計画書を作成した上で可能な限り改善に取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

今回の自己評価は管理者がまとめ、それについて職員が確認するという流れで行われている。全職員が評価項目のねらいや活用方法をより一層理解した上で次回の自己評価に取り組むことが望まれる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

外部評価結果の報告、改善課題への取り組み、職員研修、防災訓練、地域行事への参加など、有意義かつ活発な討議が行われており、出された意見や情報はサービスの質の向上に活かしている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

全職員が誠実に丁寧に家族の話を傾聴することで、遠慮なく話せるような信頼関係を築いている。家族会では様々な企画を実施し、好評を得ている。トラブルもなく、利用者は安心して生活している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

自治会に加入しており、地域の行事や情報などを得ながら、地域の方と親しむ機会をもっている。運営推進会議を通して自治会や民生委員との交流を深めており、今後はさらに交流の輪を広げていこうと考えている。利用者のほとんどが地域の方なので、近隣に住む友人の訪問も多い。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームしおさい

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)
氏名 加藤 博

評価完了日 平成 20 年 10 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) しおさいが目指すサービスのあり方について全職員で話し合い、地域とのつながりについても明文化し、運営理念に盛り込んでいる。 (外部評価) ゆっくりゆったり安心した生活が送れ、いつも笑顔で過ごしていただけるよう支援していくことや、地域に根ざしたホームとして、つながりを大切にすることなどを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念は、ホーム内に掲示しており職員会議等で常に確認し、日々のサービス提供時心掛けている。 (外部評価) 全職員が考えた理念に沿ってケアを実践している。職員の、理念への理解度は高く、利用者の喜び、家族の安心、職員のやりがいに繋がっている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 地域には運営推進会議を通して、また家族には、面会時や家族会等で説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩等、外出の機会を作り、地域との交流に努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 積極的に地域の文化祭や運動会などに参加、人とのふれあいを大切にしている。 (外部評価) 地域との交流を深めたいと考え、地区運動会の見学、文化祭への出展、秋祭りの太鼓台など、積極的に参加している。利用者のほとんどが地域の方なので、友人の訪問も多い。	※	他の施設との交流にも今後努めていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的にやっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価については、スタッフ会にて全員で検討し、外部評価の指摘事項については会議で報告し改善に向けて努力している。 (外部評価) 自己評価は、管理者がまとめ、その後職員が確認するという流れで取り組んでいる。経験の浅い職員は、評価項目の意味や意義の理解が十分とはいえない。外部評価については、ケアの見直しや改善への取り組みを積極的に行っている。	※ ※	改善策などスタッフ会で検討して職員の意識統一をはかっている。 評価項目の学習を研修の中に盛り込むことを計画している。次回は職員が各自のケアを振り返りながら自己評価に取り組み、全職員で話し合いながらまとめていくことが期待される。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、民生委員・自治会長・介護福祉課職員 家族会会長などできるだけ多くの方に参加していただき、そこでの意見を日頃のサービス向上に活かしている。 <hr/> (外部評価) 読みごたえのある議事録から、内容の濃い会議が開催されていることがうかがえる。外部評価結果の報告、職員研修、勉強会、防災訓練、地域行事への参加等について、有意義かつ活発な意見交換を行い、利用者へのサービスの質の向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 困難事例や検討事項など、介護保険更新時伺った際などに相談や助言をいただいている。 <hr/> (外部評価) グループホーム協議会の管理者会で、市担当者に話を聞いたり、日頃のケアで疑問に思う点等については必ず問い合わせ、ホームの運営に活かしている。書類を月1回提出する際にも連携を図るようにしている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び責任者は、成年後見制度の研修に参加し知識を深めるとともに、職員に対しても、スタッフ会等で勉強会を行うなど制度の周知を図っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者は、高齢者虐待防止法に関する研修に参加し、理解しているが、事業所内で虐待が行われるケースは想定していない。	※	日々の業務において力による暴力だけでなく、言葉による暴力や精神的な暴力もあることを今後も周知徹底していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、料金等に始まり、ケアについての考え方や退去を含めた当事業所の対応可能な範囲についても説明を行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に入居者様に声かけを行い、互いの信頼関係を構築している。言いたいことが何でも話せる雰囲気作りを努めている。	※	入居者様からの苦情等はユニット会などで協議し、対応策など検討している。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族会を設け、意見や不満などいただくようにしていると同時に、面会時に色々お話を聞くように努めている。 (外部評価) 家族の来訪は非常に多い。来訪時には、利用者の暮らしぶりや健康状態などをこまめに報告している。家族会は年2回開催し、家族への報告を行い、家族からの要望等を聞くほか、手品やマンドリン演奏、食事会、外食など様々な企画を実施しており、好評である。金銭出納帳には入金時に検印していただくようお願いしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を設け、意見や不満などいただくようにしている。また、施設玄関に意見箱を設置し、苦情などあれば、活用しているよう家族会でも呼びかけを行っている。 (外部評価) 職員は前向きに話を傾聴する姿勢があり、家族への対応も相手の立場に立って接していると理解できる。トラブルもなく、家族と職員の信頼関係が築かれ、相談しやすい雰囲気を醸し出している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員同士で意見交換を行い、問題点があれば、全体会議において議題にあげ話し合い、改善に努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居者様のことを第一に考え、生活する上で支障をきたさない人員配置に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 各ユニット職員は原則固定化し、馴染みの職員から支援を受けられるようにしている。 (外部評価) 離職はあったが、交代時には1か月の引継ぎ期間を設けており、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職員レベルにあった研修に参加している。またスタッフ会で研修報告の機会を作っている。 (外部評価) ホーム内において、月1回のスタッフ会で勉強会をしたり、研修を受講した職員が内容を報告して全員で共有するなど、職員を育てる取り組みを積極的に行っている。資格取得についても施設長の理解と情熱が感じられる。職員の段階に応じた研修への参加も勧めている。		今後も相互研修などに積極的に参加していきたい。他施設との交流を深め、より良い介護に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム協会主催の相互評価事業にも参加し、他の施設の良いところを学び、サービスの向上に努めている。 管理者も他施設との交流を頻繁に行なっている。 (外部評価) 市内には16のグループホームがあり、2～3か月に1回は管理者会を行い、情報交換・対応の仕方・悩みなどを討議している。また、同業者同士で年に9回相互研修を行っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の休憩所を少し離れた場所に設け、完全に仕事からはなれ、気分転換できる環境を整えている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、管理者と頻回に電話連絡を取ることで、職員の勤務状況や、現場で起きていることの把握に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 必ず本人と面会し、よく話を聞く機会を作っている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分な時間を確保し、本人や家族が困っていることをよく聞き、当事業所としてできる限りの対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 介護保険外のサービスを含めた対応を、本人や家族、担当ケアマネと話し合っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々に施設に慣れてもらうよう配慮しているが、すぐ入居が決まった場合などは、家族に頻りに面会に来ていただくなど協力をいただいている。 また、入居時には、愛用していた物品等も持参していただいている。(食器や写真立て、枕など) (外部評価) 利用開始前に一度は本人に来てもらい、一緒に食事をしながら環境に慣れてもらうと同時に、ホームでの生活に適應できるかどうか等について、家族を交えて相談している。申し込みに来た方には、他の施設も見て、本人にもっとも合うサービスが利用できるよう勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 理念に基づき、本人の思いに共感し、共に支えあえる関係作りに努めている。 (外部評価) 料理(切り方・煮物の方法等)、地域の行事、塩田のことなど、昔ながらの技や知恵などについて人生の先輩である利用者から教わることが多く、職員は感謝の言葉を伝えている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会などの機会に、入居者様の近況報告を行い、家族との協力関係が築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 季節毎の行事や家族会等を通して本人はもちろん、家族との交流や関係を深めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 敬老の日など地元での催しがあれば、参加を家族と相談するなどしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者様全員が参加できるレクリエーションを提供し、皆で仲良く参加できるように職員が調整役となり、支援できるよう努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 継続的なかかわりを必要とする利用者や家族には、できる限りの協力を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各入居者様に担当者をつけ、担当者は特に担当入居者の状況把握に努めている。 レベルの低下にて把握が困難な入居者様も居られるが、過去に把握した情報を活かし、安心・安楽な環境の提供を図っている。 (外部評価) 理念の中の「その人らしくゆっくりゆったり安心した生活・いつも笑顔で」を実践するための言葉かけや会話を大切にし、時間をかけて一人ひとりを知ろうと努めている。洗濯物干しや配膳の手伝いなど、できることを大切に、見守りながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅に訪問し、本人や家族より情報収集を行っているが不十分な所もある為、入居後も家族や知人の面会時など継続した情報収集を行っている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活リズムや身体状況については、事前に把握するように努めている。 昼夜逆転する入居者様も居られるが、一日を通して安心した生活をして頂ける様に心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望は日頃から把握に努めている。 (外部評価) 月1回モニタリングを行い、利用者の日常の様子から気づいたことや意見を出し合いながら作成している。職員に気をつけてほしいことなどを家族から聞き、計画作成に活かしている。日々の記録をする時に、介護計画も一緒に確認できるよう工夫されている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 一ヶ月ごとにモニタリング・見直しを行い、家族や本人に説明し印鑑をもらうようにしている。 (外部評価) 1か月ごとに家族と話し合いの場を持ち、見直しや計画作成をしている。全体会やユニット会においても利用者一人ひとりについて丁寧に検討し、見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の水分量・排泄・入浴等チェック欄を設け、把握に努めるとともに、気づきを記録に残しプランや日頃のケアに活かせるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 通院は原則家族にお願いしているが、家族の都合のつかない時や状態急変時などは職員が付き添うなど臨機応変に対応している。 また、要望があれば、車椅子対応車を家族に貸し出している。 (外部評価) 現在のところ希望はないため家族の宿泊は行っていない。医療連携体制を活かし、利用者及び家族に負担にならないような受診の支援をしている。開設から年月を経て、利用者の機能低下がみられるようになってくるため、家族等と相談しながら柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員さんやボランティアとのつながりを大切に考えており、絵手紙に月2回、また毎月の誕生会でもマンドリンや紙芝居など多くのボランティアさんにきていただいている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じ他のサービスも利用できる体制をとっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括センターとは随時、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業について情報交換を行っている。 また、来年度より相談員を受け入れる予定である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の望むかかりつけ医となっている。必要時は看護婦が受診に付き添い医師との連携をはかっている。 (外部評価) 定期的な歯科往診がある。家族による受診の際には、職員が利用者の状況等がわかるメモを渡し、受診がスムーズにいくよう配慮している。状態変化や緊急時には職員が受診を支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 神経内科医と連携をはかり、薬等についても相談・助言をいただいている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤の看護師を配置し、日頃の体調管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は看護師やケアマネが情報提供に努め、できるだけ安心した入院生活を送れるよう支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合の対応については、契約時、家族に説明している。 (外部評価) ターミナルケアの経験はないが、施設長はターミナルケアの難しさを感じている。医療が必要になったり、食事ができなくなったり、痛みが起きた時には本人にとって幸せな方法、適切な方法をとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化に伴う状態急変時には、すぐに診てもらえるよう医療機関と連携をはかっている。 また、医療的処置を常時必要とする方のターミナルケアについては、現在のところ当施設では考えていない。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の事業所や病院に移られる場合は、十分に情報交換を行うよう心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) スタッフ会などで職員の意識向上をはかり、責任者が日々の職員のかかわり方や記録を把握するよう努めている。 (外部評価) 内容や呼び方等、言葉かけには十分配慮している。トイレや入浴の時にはプライバシーや羞恥心に配慮したケアに心がけている。個人情報に関わる書類等は適切に取り扱っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 頻繁に声かけを行い、意思疎通ができるよう努めている。意思表示が困難な方には、表情を見たり、筆談をしたりどなたでも自分で選択するよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者様一人ひとりのペースを把握し、ゆったりとした日常生活を送れるよう支援している。 また、希望や要請には出来る範囲にて柔軟に対応している。 (外部評価) 理念に「その人らしく」とあるように、日々の生活の中で本人のペースに合わせた暮らしができるよう、一人ひとりの今までの経験や希望、生活のリズムの把握に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 月に一度、美容師の訪問日を設けているが、希望があれば本人の希望する美容院へ行けるよう支援している。 また服装については、家族さんの許可を伺い本人と一緒に買い物に行き、好きな服を選んでいただいている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者様の嗜好を聞き、バランスのとれた献立を考えており、職員も食を共にしている。 また、当施設でとれた野菜も食材として使用している。 (外部評価) 訪問日には利用者がじゃが芋の皮むき、もやしの根取りをしている場面に出会い、できることをできる人が自然な流れの中で和やかにしている姿を見ることができた。 職員は利用者と一緒に同じテーブルで楽しく食事をしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 酒や煙草をされる入居者様はいないが、希望があれば買い物に付き添うなどしている。 毎週水曜日には、パン屋さんも来ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 各入居者様に合わせて、定期的にトイレの声かけ、誘導を行いトイレでの排泄を支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入居者様の希望に沿って入浴の支援を行なっている。また、入浴剤を使用するなど入浴を楽しんでもらっている。 入浴を拒否する入居者様には、体調にあわせ清拭や足浴、更衣の支援を行なっている。 (外部評価) 入浴は週3回を基本にしている。入浴拒否される方には無理強いすることはせず、職員のチームワークや家族の協力により、納得して入浴できるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 適正な昼夜リズムの獲得も大切であるが、日中ウトウトされる入居者様には、声かけ自室にて休んでもらっている。 また、ADL低下の著しい入居者様は近くのホール畳で休んでもらうなど、臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 調理の下ごしらえや食後の片付け、洗濯物についても入居者様同士が協力され行なっている。 (外部評価) 歌や踊りのレクリエーションを楽しんでいる。洗濯物を干したり取り込んだり、配膳・下膳、食器拭きなど、一人ひとりに役割を用意し、できることをできる時にしてもらっており、利用者のやりがいに繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族さんの協力を得て、お小遣い程度のお金を所持している入居者様もいるが、基本的には施設で管理している。外出時などは、できる限り入居者様が支払いなど行なえるよう支援している。	※	管理台帳を作成し、定期的に家族の方に残高確認や報告を行なっている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は、散歩や買い物に出かけ気分転換をはかっている。 また、ドライブなども計画し、季節を味わってもらえる場所へ出かける機会を多く作るよう心がけている。 (外部評価) 童謡や懐メロ、軍歌などを歌いながら散歩することもある。徐々に機能が低下してくるので、ゆっくり近くまで出かけ、ベンチで休みながら帰ってくることも多い。外に出ることは気分転換やストレス発散になり、また季節を感じられる貴重な時間となっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族とも協力し、柔軟に対応している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、家族や友人への電話支援を行なっている。 また、年賀状や暑中見舞いなども入居者様に書いてもらっている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問し、居心地よく過ごしてもらえるような雰囲気作りを心がけている。 また、訪問時は個室（各入居者様個室）にて一緒にお茶を楽しんでもらえるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行なっていない。精神安定剤等の使用についても職員間、かかりつけ医と十分に相談している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間防犯目的以外行なっていない。 日中、外に干している洗濯物等に興味を惹かれる入居者様もいますが、その様なそぶりのある時には、職員が同行し納得していただいております、玄関以外のサッシ等の鍵についても施錠しないケアに取り組んでいる。 (外部評価) 夜間の防犯目的以外には鍵をかけていない。安全面に配慮して職員が見守りを怠らないよう注意しているが、玄関の開閉時は念のためさりげなくチャイムが鳴るようにしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室への入室は本人の許しを得て入室し、本人の羞恥心にも配慮した対応を心がけている。 夜間の巡回も2時間毎に行い、安全確認はもとより、寝具の乱れや履物、バギー車の配置等、危険を予知して正しい状態に戻すようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一律に危険なものをなくすのではなく、職員の気配りや対応によって危険を回避できないか協議している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故防止のための勉強会や防火訓練については定期的実施している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応については看護師が講師になり職員会等で介護職員に指導している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練等行い、災害に備えている。 (外部評価) 年2回の訓練を実施している。近所の学校が避難場所に指定されている。ホームはオール電化であるが、地震等のことも想定し、昼間の訓練はもちろん、夜間を想定した訓練も必要であると考えている。地域の協力を得ることや、ホームが地域に協力できることは何かなど、運営推進会議を通して今後の課題として討議する予定である。	※	平成16年の水害を経験したことからも、施設長は災害対策は特に意識しており、より一層レベルの高い訓練を地域の協力を得ながら続けられることが望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについては、契約時家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 看護師を常に配置し、状態変化には常に気を配っており、状況に応じて速やかに家族や医療機関へ連絡を行うようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のカルテに薬の説明シートを綴じており、いつでも確認出来るようにしている。 重要な薬や、調整が必要な薬については全職員が把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事や散歩など、できる限り薬に頼らない便秘予防を行なっているが、必要時は看護師が排便を行なうなど対応している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 就寝前には歯磨きの声かけ、義歯を預かり洗浄液につけておくなど個々に応じた支援を行なっている。 また、毎週1～2回の訪問歯科診療があり、不具合があれば診てもらっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量は毎日記録し、職員間で情報を共有している。 (外部評価) 水分補給については、1日1.5ℓ～2ℓ摂取できるように気をつけて支援し、記録や申し送りにより職員で共有している。糖尿病の方は医師の指示に従い、塩分や砂糖を控えている。栄養バランスは調理師にチェックをお願いしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防のマニュアルを作成しており、内容についても職員会議で看護師より介護職員に説明を行なっている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材については、なるべく買いためしないようにしている。 また、台所まわりは、常に清潔に保つよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は明るい雰囲気になるように季節の花を活けるなど工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の置物や飾り物を、入居者様と一緒に作成し壁等に飾り付けている。 また、中庭の畑では季節の野菜を植え、収穫する喜びを味わっていただいている。 (外部評価) 生活の多くを過ごす居間では、職員は利用者の目線まで腰を落とし、心地良い空間の中で会話を弾ませている。男性職員が多いことはホームの自慢のひとつであり、利用者にとっても頼りがいがあり、たのしみさを感じる。居間にも飾りや花などで季節を感じられる工夫がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロア内には畳みスペースを設けており、また廊下やテラスに椅子を置き各入居者様が思い思いに過ごせるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が以前使っていたタンスや道具、家族の写真を飾るなど居心地の良い空間作りを行っているが十分とは言えない。 (外部評価) 居室はシンプルで明るい。作り付けの大きい収納は使いやすく、利用者や家族にも喜ばれている。仏壇や位牌、愛用していた物品等を、家族の協力によって持ち込んでおり、その人らしく落ち着いた居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気には十分配慮しており、温度管理についても本人の希望やその日の室温など考え冷暖房を調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 通路・トイレ・風呂場には手すりがあり、なるべく歩行してもらうよう支援しているが、特別な場合には車椅子を使用するなど安全にも配慮を怠らないようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各入居者様に合わせ、できることはできるだけしていただき自立した生活が送れるよう支援している。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 日光浴を楽しめるようテラスにベンチを置くなど工夫している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日常的な会話の中からその人の思いを汲み取っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	理念を基本に、本人の思いに共感し互いに支えあい信頼できる関係が会話や、ふれあいの中から生まれるよう努力する。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員側の決まりや都合で支援するのではなく入居者様一人ひとりのペースを把握し希望や要請には柔軟に対応している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	趣味や役割作りなどの支援を行っているが、役割作りなどがうまくいかない入居者の方もおり十分とは言えないものの散歩や買い物に誘うなど日常生活の中でその入居者様が喜びを感じるように努めている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行事への参加や外出支援も積極的に行っているが、日頃ちょっとした外出などは十分に対応できているとは言えないが近所への外出は希望があれば皆で出かけるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	看護師を配置しており、健康管理は高い水準で行えている。協力病院との連携も緊密に行ない緊急時の体制も整っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員数も十分に確保しており、要望に応じた柔軟な支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ケアプラン計画表を月1回手渡しや郵送している。又苦情処理箱を設けている。苦情に関しては職員一同で検討する。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	家族さんはよく面会に来てくれている。また誕生会や絵手紙教室など、なじみのボランティアさんも訪問に訪れている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議に参加した民生委員さんが他の民生委員さんを紹介してくれるなど地元の関係者とのつながりが広がっている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ストレスの多い職業である為、疲れが見える職員がいることも事実であるが、働きやすい職場作りを管理者は心がけている。又研修に参加したり他施設の職員との交流も深めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	十分なサービスは行えていないという視点に常に立ち日々研鑽に努めた
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族面会時には近況報告を念入りに行い色々な面において安心していただいていると感じる。苦情等は聞かれないが、満足頂いていると過信せず日々サービスの向上に努めたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

福祉の第一線にあるものとして自らの資質向上に全職員努めている。利用者一人ひとりの多様な生活・文化・価値観を尊重しながら介護・援助の技術、人間の尊厳を根底においた倫理性をもつサービスを提供している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームしおさい

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)
氏名 加藤 博

評価完了日 平成 20 年 10 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) しおさいが目指すサービスのあり方について全職員で話し合い、地域とのつながりについても明文化し、運営理念に盛り込んでいる。 (外部評価) ゆっくりゆったり安心した生活が送れ、いつも笑顔で過ごしていただけるよう支援していくことや、地域に根ざしたホームとして、つながりを大切にすることなどを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念は、ホーム内に掲示しており職員会議等で常に確認し、日々のサービス提供時心掛けている。 (外部評価) 全職員が考えた理念に沿ってケアを実践している。職員の、理念への理解度は高く、利用者の喜び、家族の安心、職員のやりがいに繋がっている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 地域には運営推進会議を通して、また家族には、面会時や家族会等で説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩等、外出の機会を作り、地域との交流に努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会や地域行事（文化祭・運動会等）にも参加し、地域との交流に努めている。 (外部評価) 地域との交流を深めたいと考え、地区運動会の見学、文化祭への出展、秋祭りの太鼓台など、積極的に参加している。利用者のほとんどが地域の方なので、友人の訪問も多い。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的にやっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価の結果は、全体スタッフ会で報告し、改善に向けて全職員で検討している。また、現場責任者が改善計画書を作成し改善に取り組むようにしている。 (外部評価) 自己評価は、管理者がまとめ、その後職員が確認するという流れで取り組んでいる。経験の浅い職員は、評価項目の意味や意義の理解が十分とはいえない。外部評価については、ケアの見直しや改善への取り組みを積極的にやっている。	※	評価項目の学習を研修の中に盛り込むことを計画している。次回は職員が各自のケアを振り返りながら自己評価に取り組む、全職員で話し合いながらまとめていくことが期待される。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、民生委員・自治会長・介護福祉課職員 家族会会長などできるだけ多くの方に参加していただき、そこでの意見を日頃のサービス向上に活かしている。 (外部評価) 読みごたえのある議事録から、内容の濃い会議が開催されていることがうかがえる。外部評価結果の報告、職員研修、勉強会、防災訓練、地域行事への参加等について、有意義かつ活発な意見交換を行い、利用者へのサービスの質の向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 困難事例や検討事項など、介護保険更新時伺った際などに相談や助言をいただいている。 (外部評価) グループホーム協議会の管理者会で、市担当者に話を聞いたり、日頃のケアで疑問に思う点等については必ず問い合わせ、ホームの運営に活かしている。書類を月1回提出する際にも連携を図るようにしている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び責任者は、成年後見制度の研修に参加し知識を深めるとともに、職員に対しても、スタッフ会等で勉強会を行うなど制度の周知を図っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者は、高齢者虐待防止法に関する研修に参加し、理解しているが、事業所内で虐待が行われるケースは想定していない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、料金等に始まり、ケアについての考え方や退去を含めた当事業所の対応可能な範囲についても説明を行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各入居者様に担当職員をつけ、特に担当職員は入居者様の言葉や態度から不満を感じ取る努力をしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 家族面会時には、職員が近況報告を行うとともに、一ヶ月に一回は介護計画にサインをいただき、近況報告を行うようにしている。 (外部評価) 家族の来訪は非常に多い。来訪時には、利用者の暮らしぶりや健康状態などをこまめに報告している。家族会は年2回開催し、家族への報告を行い、家族からの要望等を聞くほか、手品やマンドリン演奏、食事会、外食など様々な企画を実施しており、好評である。金銭出納帳には入金時に検印していただくようお願いしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を設け、意見や不満などいただくようにしている。また、施設玄関に意見箱を設置し、苦情などあれば、活用しているよう家族会でも呼びかけを行っている。 (外部評価) 職員は前向きに話を傾聴する姿勢があり、家族への対応も相手の立場に立って接していると理解できる。トラブルもなく、家族と職員の信頼関係が築かれ、相談しやすい雰囲気を醸し出している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者や管理者は、職員が意見を言いやすい環境づくりを常に心掛けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居者の生活リズムに合わせたローテーションを組んでいる。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 各ユニット職員は原則固定化し、馴染みの職員から支援を受けられるようにしている。 (外部評価) 離職はあったが、交代時には1か月の引継ぎ期間を設けており、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職員レベルにあった研修に参加を促している。またスタッフ会で研修報告を行い、全職員へ周知を図っている。 (外部評価) ホーム内において、月1回のスタッフ会で勉強会をしたり、研修を受講した職員が内容を報告して全員で共有するなど、職員を育てる取り組みを積極的に行っている。資格取得についても施設長の理解と情熱が感じられる。職員の段階に応じた研修への参加も勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム協会主催の相互評価事業にも参加し、他の施設の良いところを学び、サービスの向上に努めている。 (外部評価) 市内には16のグループホームがあり、2～3か月に1回は管理者会を行い、情報交換・対応の仕方・悩みなどを討議している。また、同業者同士で年に9回相互研修を行っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の休憩所を少し離れた場所に設け、完全に仕事からはなれ、気分転換できる環境を整えている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、管理者と頻回に電話連絡を取ることで、職員の勤務状況や、現場で起きていることの把握に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 必ず本人と面会し、よく話を聞く機会を作るようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分な時間を確保し、本人や家族が困っていることをよく聞き、当事業所としてできる限りの対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 介護保険外のサービスを含めた対応を、本人や家族、担当ケアマネと話し合っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々に施設に慣れてもらうよう配慮しているが、すぐ入居が決まった場合などは、家族に頻りに面会に来ていただくなど協力をいただいている。 また、入居時には、愛用していた物品等も持参していただいている。(食器や写真立て、枕など) (外部評価) 利用開始前に一度は本人に来てもらい、一緒に食事をしながら環境に慣れてもらうと同時に、ホームでの生活に適應できるかどうか等について、家族を交えて相談している。申し込みに来た方には、他の施設も見て、本人にもっとも合うサービスが利用できるよう勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一年を通しての昔ながらの習慣や、行事について職員が学ぶところは大きく、ともに学び支えあう関係を築いている。 (外部評価) 料理(切り方・煮物の方法等)、地域の行事、塩田のことなど、昔ながらの技や知恵などについて人生の先輩である利用者から教わるが多く、職員は感謝の言葉を伝えている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族からの相談には、誠意をもって職員も共に考え、対応している。面会時には、「何かお聞きしたいことはないですか？」など積極的に聞きするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 季節毎の行事や家族会等を通して本人はもちろん、家族との交流や関係を深めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 敬老の日など地元での催しがあれば、参加を家族と相談するなどしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 仲良しメンバーが自然とできており、楽しく過ごされている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 継続的なかかわりを必要とする利用者や家族には、できる限りの協力を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各入居者様に担当者をつけ、担当者は特に担当入居者の状況把握に努めている。 レベルの低下にて把握が困難な入居者も居られるが、過去に把握した情報を活かし、安心・安楽な環境の提供を図っている。 (外部評価) 理念中の「その人らしくゆっくりゆったり安心した生活・いつも笑顔で」を実践するための言葉かけや会話を大切にし、時間をかけて一人ひとりを知ろうと努めている。洗濯物干しや配膳の手伝いなど、できることを大切に、見守りながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅に訪問し、本人や家族より情報収集を行っているが不十分な所もある為、入居後も家族や知人の面会時など継続した情報収集を行っている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活リズムや身体状況については、事前に把握するように努めている。 昼夜逆転する入居者様も居られるが、一日を通して安心した生活をして頂ける様に心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望は日頃から把握に努めている。 (外部評価) 月1回モニタリングを行い、利用者の日常の様子から気づいたことや意見を出し合いながら作成している。職員に気をつけてほしいことなどを家族から聞き、計画作成に活かしている。日々の記録をする時に、介護計画も一緒に確認できるよう工夫されている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 一ヶ月ごとにモニタリング・見直しを行い、家族や本人に説明し印鑑をもらうようにしている。 (外部評価) 1か月ごとに家族と話し合いの場を持ち、見直しや計画作成をしている。全体会やユニット会においても利用者一人ひとりについて丁寧に検討し、見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の水分量・排泄・入浴等チェック欄を設け、把握に努めるとともに、気づきを記録に残しプランや日頃のケアに活かせるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 通院は原則家族にお願いしているが、家族の都合のつかない時や状態急変時などは職員が付き添うなど臨機応変に対応している。 また、要望があれば、車椅子対応車を家族に貸し出している。 (外部評価) 現在のところ希望はないため家族の宿泊は行っていない。医療連携体制を活かし、利用者及び家族に負担にならないような受診の支援をしている。開設から年月を経て、利用者の機能低下がみられるようになってくるため、家族等と相談しながら柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員さんやボランティアとのつながりを大切に考えており、絵手紙に月2回、また毎月の誕生会でもマンドリンや紙芝居など多くのボランティアさんにきていただいている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じ他のサービスも利用できる体制をとっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括センターとは随時、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業について情報交換を行っている。 また、来年度より相談員を受け入れる予定である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の望むかかりつけ医となっている。必要時は看護婦が受診に付き添い医師との連携をはかっている。 (外部評価) 定期的な歯科往診がある。家族による受診の際には、職員が利用者の状況等がわかるメモを渡し、受診がスムーズにいくよう配慮している。状態変化や緊急時には職員が受診を支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 神経内科医と連携をはかり、薬等についても相談・助言をいただいている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤の看護師を配置し、日頃の体調管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は看護師やケアマネが情報提供に努め、できるだけ安心した入院生活が送れるよう支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合の対応については、契約時、家族に説明している。 (外部評価) ターミナルケアの経験はないが、施設長はターミナルケアの難しさを感じている。医療が必要になったり、食事ができなくなったり、痛みが起きた時には本人にとって幸せな方法、適切な方法をとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化に伴う状態急変時には、すぐに診てもらえるよう医療機関と連携をはかっている。 また、医療的処置を常時必要とする方のターミナルケアについては、現在のところ当施設では考えていない。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の事業所や病院に移られる場合は、十分に情報交換を行うよう心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 本人の尊厳やプライバシーに配慮した声かけや対応を心がけているが、徹底できていないのが現状である。 (外部評価) 内容や呼び方等、言葉かけには十分配慮している。トイレや入浴の時にはプライバシーや羞恥心に配慮したケアに心がけている。個人情報に関わる書類等は適切に取り扱っている。	※	スタッフ会などで責任者より指導し改善していく
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) おやつや飲み物についても入居者の希望を聞くなど、生活の場面場面で選択肢を設け、自己決定の支援を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各入居者様が出来る範囲で役割をもって、メリハリのある生活が送れるよう支援している。 転倒の危険のある入居者様にも出来るだけ職員が付き添い自由に行動していただき、各入居者様が何が出来のかを追求・重要視した援助を心がけている。 (外部評価) 理念に「その人らしく」とあるように、日々の生活の中で本人のペースに合わせた暮らしができるよう、一人ひとりの今までの経験や希望、生活のリズムの把握に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 入居者様によっては、いきつけの美容院に行かれる方もおり、また自立されている方は、服装も自由に着こなされ、化粧も楽しまれています。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その時々メニューの下ごしらえを皆さんにしていたいただき、出来上がった料理を食べながら会話も弾んでいます。 また、後片付けも役割分担ができており、協力しながら行なっています。 (外部評価) 訪問日には利用者がじゃが芋の皮むき、もやしの根取りをしている場面に出会い、できることをできる人が自然な流れの中で和やかにしている姿を見ることができた。職員は利用者と一緒に同じテーブルで楽しく食事している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 酒や煙草をされる入居者様はいないが、希望があれば買い物に付き添うなどしている。 毎週水曜日には、パン屋さんも来ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 表情やしぐさ等での随時のトイレ誘導や、定時のトイレ誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう心がけている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 週に3回の入浴日を設けているが、その日の体調や散髪、外出などによって臨機応変に変更している。 また、入浴日以外でも希望があれば対応行なっている。 (外部評価) 入浴は週3回を基本にしている。入浴拒否される方には無理強いすることはせず、職員のチームワークや家族の協力により、納得して入浴できるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 適正な昼夜リズムの獲得も大切であるが、日中ウトウトされる入居者様には、声かけ自室にて休んでもらっている。 また、ADL低下の著しい入居者様は近くのホール畳で休んでもらうなど、臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 調理の下ごしらえや食後の片付け、洗濯物についても入居者様同士が協力され行なっている。 (外部評価) 歌や踊りのレクリエーションを楽しんでいる。洗濯物を干したり取り込んだり、配膳・下膳、食器拭きなど、一人ひとりに役割を用意し、できることをできる時にしてもらっており、利用者のやりがいに繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理については原則施設が行なっているが、本人希望あれば、近くのコンビニの買い物や、外出時など本人に手渡し自由に使ってもらっている。 入居者様によっては家族了解のうえで少額本人が管理し、買い物などで使用している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 毎日の散歩コースがあり、天候のよい日は皆さんで歌を唄いながら歩かれています。 また、ときにはドライブも楽しまれています。 (外部評価) 童謡や懐メロ、軍歌などを歌いながら散歩することもある。徐々に機能が低下してくるので、ゆっくり近くまで出かけ、ベンチで休みながら帰ってくることも多い。外に出ることは気分転換やストレス発散になり、また季節を感じられる貴重な時間となっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) お花見などの季節行事や外食など、行事によっては家族にも声をかけ、本人家族はもちろん、他の入居者様やその家族との交流機会を確保するようにしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、家族や友人への電話支援を行なっている。 また、年賀状や暑中見舞いなど職員が代筆する場合もあるが、できる限り本人に書いてもらっている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間は原則自由であり、面会時は寛いだ時間を過ごして貰えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。精神安定剤等の使用についても職員間、かかりつけ医と十分に相談している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間防犯目的以外行っていない。日中、外に干している洗濯物等に興味を惹かれる入居者様もいますが、その様なそぶりのある時には、職員が同行し納得していただいております。玄関以外のサッシ等の鍵についても施錠しないケアに取り組んでいる。		
			(外部評価) 夜間の防犯目的以外には鍵をかけていない。安全面に配慮して職員が見守りを怠らないよう注意しているが、玄関の開閉時は念のためさりげなくチャイムが鳴るようにしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室への入室は本人の許しを得て入室し、本人の羞恥心にも配慮した対応を心がけている。 夜間の巡回も2時間毎に行い、安全確認はもとより、寝具の乱れや履物、バギー車の配置等、危険を予知して正しい状態に戻すようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一律に危険なものをなくすのではなく、職員の気配りや対応によって危険を回避できないか協議している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故防止のための勉強会や防火訓練については定期的実施している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応については看護師が講師になり職員会等で介護職員に指導してる。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練等行い、災害に備えている。 (外部評価) 年2回の訓練を実施している。近所の学校が避難場所に指定されている。ホームはオール電化であるが、地震等のことも想定し、昼間の訓練はもちろん、夜間を想定した訓練も必要であると考えている。地域の協力を得ることや、ホームが地域に協力できることは何かなど、運営推進会議を通して今後の課題として討議する予定である。	※	平成16年の水害を経験したことからも、施設長は災害対策は特に意識しており、より一層レベルの高い訓練を地域の協力を得ながら続けられることが望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについては、契約時家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日常的に体温・血圧・脈拍測定により、身体状況の把握に努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のカルテに薬の説明シートを綴じており、いつでも確認出来るようにしている。 重要な薬や、調整が必要な薬については全職員が把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事や散歩など、できる限り薬に頼らない便秘予防を行なっているが、必要時は看護師が排便を行なうなど対応している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 就寝前には歯磨きの声かけ、義歯を預かり洗浄液につけておくなど個々に応じた支援を行なっている。 また、毎週1～2回の訪問歯科診療があり、不具合があれば診てもらっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量は毎日記録し、職員間で情報を共有している。 (外部評価) 水分補給については、1日1.5ℓ～2ℓ摂取できるように気をつけて支援し、記録や申し送りにより職員で共有している。糖尿病の方は医師の指示に従い、塩分や砂糖を控えている。栄養バランスは調理師にチェックをお願いしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防のマニュアルを作成しており、内容についても職員会議で看護師より介護職員に説明を行なっている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材については、なるべく買いためしないようにしている。 また、台所まわりは、常に清潔に保つよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は明るい雰囲気になるように季節の花を活けるなど工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の置物や飾り物を、入居者様と一緒に作成し壁等に飾り付けている。 (外部評価) 生活の多くを過ごす居間では、職員は利用者の目線まで腰を落とし、心地良い空間の中で会話を弾ませている。男性職員が多いことはホームの自慢のひとつであり、利用者にとっても頼りがいがあり、たのしみを感じる。居間にも飾りや花などで季節を感じられる工夫がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲良しの入居者様同士での居室への出入り、ホールやテラスのベンチも皆さん思い思いに使用し、好みの場所にてコミュニケーションがはかられている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者様から希望のものがあれば、家族に連絡し持参していただくなど本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。 (外部評価) 居室はシンプルで明るい。作り付けの大きい収納は使いやすく、利用者や家族にも喜ばれている。仏壇や位牌、愛用していた物品等を、家族の協力によって持ち込んでおり、その人らしく落ち着いた居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気には十分配慮しており、温度管理についても本人の希望やその日の室温など考え冷暖房を調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 通路・トイレ・風呂場には手すりがあり、なるべく歩行してもらうよう支援しているが、特別な場合には車椅子を使用するなど安全にも配慮を怠らないようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各入居者様に合わせ、できることはできるだけしていただき自立した生活が送れるよう支援している。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 日光浴を楽しめるようテラスにベンチを置くなど工夫している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	日頃より声かけ、会話を大切に考えており、会話の中から入居者様の思いや願い、意向を把握するよう心がけている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	理念にも「ゆっくり ゆったり 安心した生活を送っていただけるよう支援していきます」とうたっており、全職員日頃から心がけて支援を行なっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	起床や食事の時間などとくに決まっておらず、入居者様個人個人のペースに合わせた支援を行なっている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	日頃の会話や行事のときなど笑顔がよく見られ、料理の準備や片付けなど職員よりテキパキとされ生き生きとした表情が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	天候や職員の都合により急な要望には対応しきれないのが現状であるが、時間に余裕がある要望については出来る限り要望に応えるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	常勤の看護師がおり適切な処置と対応を行なっている。家族も協力的であり急変時はすぐに医療機関に受診できる体制ができている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	入居者様の状態や生活リズムに合わせ、勤務時間や勤務体制の変更を行なっており、柔軟な支援体制をとっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族面会時は近況報告を行うなど話をする機会を確保するよう心がけている。また、家族会も半年に一回行なっており、家族からの意見を聞く機会を設けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	誕生会や他の行事には、ボランティアの方が来てくれており歌や踊りを一緒に楽しまれています。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議には民生委員や自治会長さんなど、地域の関係者が多く参加してくれており徐々にではあるが、理解者や応援者が増えてきている。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スーパーバイザー的役割が不足しているのが現状である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	判断は難しいが、満足して頂ける様なサービスの提供を心がけている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	おおむね満足していただいていると理解している。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

理念である「ゆっくり ゆったり いつも笑顔で・・・」を職員は常に心がけ支援している。入居者様の生活リズムに合わせるのはもちろんのこと、食事や入浴といった生活の場面場面、行動のひとつひとつについても、できる限り入居者様が自由に、思うよう行動できるよう心がけている。